

S S T L

NO. 75 2022. 1. 26

# 職場参加ニュース



## 「地域共生社会」って？—八王子・志木・わがまちで

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

当会は、昨年12月12日(日)、越谷市中央市民会館で、「共に働く街を創るつどい2021」を開催しました。

今回の「つどい」では、冒頭越谷市の福田新市長から、一緒に働くということはその前の小さい頃から障害のある人もない人も一緒に過ごし、それが当たり前である世の中をつくるのが大事だと感じているとの心強いご挨拶をいただきました。

コーディネーターの朝日さんからは、かつて障害当事者とその支援者だけの閉ざされた関係をこえるために「職場参加」の取り組みが始まったが、その後福祉が規制緩和され市場競争の場となり、行政はその監督や調整役が変わってゆく中で、かつての懸念が現実になりつつあることを踏まえ、長年地域で共に生き、共に働く活動を続けてきた各地の取り組みの報告を受けて一緒に考えたいと述べられました。

パネルディスカッションについては次ページ以降で報告しますが、特別報告者の土居さん(八王子ワークセンター代表)の「はっきり言えば私は働かなくてもいいと思っている、生きることが大事だから。その上で、どうせ生きていく中で社会のいろんな人と関わり合いをもって働くという機会は大事だろうなと思っている。」という言葉が印象的でした。その言葉通り、八王子では市内作業所等の生産品を道の駅や観光地の売店へ届ける仕事もワークセンターで働く障害者達が担い街を耕しながら、他方で自立支援協議会で、小学生へのガイドブック「みんながってみんないい」配布や営利企業を含めた業種別部会も活かし、他者同士と一緒に生きるやわらかな取り組みを重ねていくことがわかりました。八王子の実践とつぎ合わせることで、埼玉、わがまちの取り組みの中に育まれてきた可能性も確認できました。なお今号の報告はあくまでも当会の責任、視点でまとめさせていただいたことを、予めお断りしておきます。また参加者アンケート結果を次号以降に報告させていただきます。

パネルディスカッション登壇者のみなさん：土居 幸仁さん (NPO 法人八王子ワークセンター代表) 竹内 善太さん (志木市障がい者基幹相談支援センター相談員) 吉田 久美子さん (地域活動支援センターパタパタ施設長、障害当事者) / コメンテーター 内田 元洋さん (越谷市地域共生部 地域共生推進課副課長) 齊藤 秀樹さん (越谷市福祉部 障害福祉課調整幹) / コーディネーター 朝日 雅也さん (埼玉県立大学教員) / 総合司会 野島久美子さん (埼玉障害者市民ネットワーク代表) 辻彩子さん (くらしセンターベしみ職員)



つどい2021 特別報告

## ワークセンターと 自立支援協議会で みんなちがってみんないい 八王子へ

土居 幸仁さん(同センター代表)

### ■八王子の地域性と独自の運動・事業

東京にとっての八王子。八王子には特別支援学校が5校ある。かつては都内から来て寄宿舎に入った。障害者の入所施設もたくさんある。精神科病床数も世界一とか言われる。老人ホームや霊園も多い。

都内から精神科に入院して退院した後もその病院に通院するため八王子に住むなど、障害者が多く作業所等が多い地域だった。その中から全国初の障害者自立生活センターや共に働き共に生きようという運動も生まれ、他の団体にも呼びかけ、1986年に八王子障害者団体連絡協議会(八障連)ができた。八障連は運動体だが、そこから事業を継続的にやっていく団体として1997年にワークセンターを別に発足させ、2000年にNPO法人になった。現在72団体が加盟している。

### ■作業所・障害児者の基盤整備事業体

ワークセンターは、作業所等のネットワークによる事業体であり、ネットワークを底支えする一般就労支援と福祉的就労支援の2事業部門を持っている。

前者は障害者・生活支援センターふらん(都事業)、プラスチック中間処理事業所リボン(市委託、46人雇用)、地域活動支援センターわくわく(休日支援)等。

後者は喫茶・レストラン運営や市役所売店はっち、作業所等の自主生産品の販路拡大、清掃等事業委託、下請け受注及び食品衛生点検や情報発信等を行うかてかて部門。これらを現在はワークポートという就労継続B型の事業所を設立し障害者の作業として行っている。

### ■市自立支援協議会発信で地域を編む

ワークセンター、八障連のメンバーも積極的に参加している自立支援協議会の取組みについて。

まず権利擁護推進部会、これは私が部会長をさせていただいている。市では「障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例」を2012年に施行し、2020年改正で合理的配慮を全事業者に義務化した。部会ではガイドブック「みんなちがってみんないい」を作成し小学4年時に配布し毎年アンケートを取るなどしている。またコロナ禍で中断してはいるが、障害者サポーター養成講座や当事者の生活実感を紹介する活動報告会を行い、市主催の施設従事者向け虐待防止研修も企画運営している。地域移行部会は地域継続支援部会と連携して活動しているが、2020年度から精神科病院からの退院促進に特化して活動している。病院訪問ピアサポーター活動を進めてきたが、コロナ禍で訪問ができないためビデオを作成して配布。知的障害者ピアサポーター養成講座との連携も次に子ども部会。八王子は都立小児病院があるので引っ越してきた家族も少なからずおり、退院した後の医療的ケアは大きな問題で、部会として取り組んでいる。島田療育園の八王子病院や中野区のさくら会と連携して医療的ケア児の支援体制を進めている。

### ■事業別部会からやわらかな連帯へ

地域継続支援部会では、地域生活が継続できるような支援体制をつくるということで、さまざまな事業ごとの連絡会を設けて連携、スキルアップを図っている。委託相談・拠点事業所連絡会では、市の委託相談5事業所が地域生活支援拠点として位置付けられ、差別虐待について交代で24時間対応を行い、医療的ケア児研修等を行っている。また計画相談事業所を中心に相談支援事業所連絡会があり、相談支援体制のあり方検討会や重層的支援体制整備事業(社協)の連携も行っている。日中活動系事業所連絡会では見学会、交流会、意見交換会に取り組む。GH連絡会では、年1回全事業所の情報を掲載したGHハンドブックを発行し、空き情報を毎月市のHPで公開したり、見学交流会、研修会、運営ガイドラインも。営利主義のGHも想定される中「GHの管理の都合で入居者が職場の宴会をあきらめずにすむよう」等の全GHへのメッセージ入カレンダー配布などの案も出ている。

## 竹内善太さん 排除しない地域めざす



川越市に住んで、見沼福祉農園で活動している NPO 法人のらんどなどいくつかの NPO で役員や監事をさせてもらっている。両親が障害者入所施設の職員をしていたので、御殿場コロニーで育ち、最終的には国立秩父学園の官舎に

おり、親から青い芝の人に車いすをぶつけられたという話を聞いていた。高校は自由の森学園だったが登校拒否してひきこもり 24 歳までうだうだしていた。たまたま上福岡障害者自立生活センター21 の求人に応募し自立生活運動と出会った。

最初の衝撃は紙すきを教えてくれたおじさんが時給 70 円で、自分は時給 750 円だったということ。その後も支援される側とする側という関係への違和感が大きくなり、共同連やワーカーズコープなど共に働くことをめざす活動に出会う。センター21 では工賃と年金を合わせた額が生活保護基準をクリアするというミッションに取り組み、生命保険会社と組んで特例子会社づくりを支援しそこに 10 人程雇われたところでセンター21 を辞める。そしてソーシャルクリエイターズという法人を立ち上げ、社会的事業所をめざす準備段階として、「誰も排除しないユニバーサルフットサル」事業に 4 年間取り組み、これをベースに社会的事業所を構想したが、コロナ禍で足踏みしている。

10 年前から NPO 法人志木市精神保健福祉をすすめる会の仕事をしており、市の成年後見利用促進審議会の委員になり、自分が介助に入っていた足首しか動かない人の意思表示のこと等話していたら、市成年後見ネットワークセンターを受託させられたことが始まり。2 年前には生活相談センターを受託していたワーカーズコープが突然撤退したため市から要請され、将来的に障害者のほうも含めて一体的なセンターにしてゆくのであればという条件付きで引き受けた。またフードバンク事業も、地域で集めて地域へ配る仕組みを作ろうと取り組んでいる。

そして現在は障害者の基幹相談支援センターが加わっているが、機能は 4 つあり、1) 総合相談、2) 虐待防止と差別解消、3) 地域の支援体制の整備(自立支援協議会事務局を含む)、4) 地域生活支援拠点の整備。私は自立支援協議会の暮らし部会長でもあるが、民生委員さんたちから「地域で支え合ってゆくにはやっぱり小さい頃から知り合えないといけないよね」という話が当然のように出てくる。4) については志木市地域まるごと支援プロジェクトを立ち上げ、精神科病院からの退院促進だけな

1994 年 8 月 24 日第三種郵便物承認

くその後地域でも見続けることがテーマ。ことに制度上ぶつ切りになっているが問題の根底は同じということで、異なるセクションをつなぎながら地域を作っていくとしている。これはすでに障害者自立生活運動が取り組んできたことだと、改めて思っており、うちの窓口では大声を出す人が来ても地域の力を信じてちんたら対応している。その積み重ねで、前には大声を出す人には警察を呼んだりしていた担当課も呼ばずに対応するようになってきた。

残念なのは、突然市民競争入札制度に入れられてしまい、来年度から社協の受託に移ってしまうこと。ただ私自身は自分が認知症になっても安心して徘徊できる地域を創るといのがテーマなので、これを機に協同労働と社会的事業所と地域づくりを組み合わせたマルチプラットフォームカフェ(居酒屋か食堂)づくりに一歩を進めたい。

## 吉田久美子さん 当たり前前問直しつ



NPO 法人共に生きる街づくりセンターかがし座の代表理事でそこが運営する地域活動支援センターパタパタの施設長。同じ建物にリサイクルショップぶあくとかケアシステムわら細工が入っている。

私は生まれつき脳性マヒで、ずっと養護学校で学び、高等部卒業後は上尾の県リハに身の回りのことや職業訓練のために入所した後、在宅でパソコンで図面を描いていた。しばらくやっていたが、なかなか給料を払ってくれなかったり、納期がきつかったりで辞めた頃、わらじの会と出会った。もともと一人暮らししたかったのと、自分で働いた金で生活したいと思っていたので、越谷の生活支援センターや CIL わらじのスタッフ募集に応じ、いろいろなところに顔を出しているうちに給料も何とかなりそうな感じになり、越谷に引っ越して一人暮らしを始めた。

わらじの会と出会った時感じたのは、自分の「当たり前」は当たり前じゃないなっていうこと。高等部卒業の時に「もう一回勉強し直したい。高校に行きたい」と進路の先生に言ったら「いやもう高校出てるし」って言われた。大学にも行きたいって思ったが、勉強好きじゃなかったからあきらめた。わらじの会と出会って、養護学校は普通科なので、卒業しても商業科などだったら行けるし、大学だって諦めなければいけたんだと知った。

それがすごく身に染みて、自分が思い込んでいた、障害があるから駄目なんだと思っていたこと

1994年8月24日第三種郵便物承認

が、つぎつぎにそうじゃないんだとわかってきて、じゃあ私の当たり前は何だったんだろうとすごく悩んだ時期もあった。

いろんなところで働かせてもらった後、ひとつの場所でちゃんと働こうということで、当時は地域ダイケア事業という県単事業でやっているパタパタで働いた。地域ダイケア事業はシバリがあまりなく、ハコモノにお金が出ており、額は少ないから処遇面も低かったが、みんなで一緒に楽しくやろうという感じでやれた。それが国の制度に組み込まれて地域活動支援センターになると、当時は毎日10人来なくちゃいけないというシバリが出てくるということで、最後の最後まで地域ダイケア事業で頑張り、県内でただ1ヶ所になった後に地域活動支援センターに移行した。その過程で、本人、家族を含め、どんな暮らしをしていきたいか考え合った。移行した時には当初よりシバリが少なくなっていた。移行に際しては法人格が必要ということで、わらじの会の活動の中でそれぞれ独自の歴史をもって成立してきたわら細工とぶあくど三者が合併してNPOを立ち上げた。そこで暮らしと介助と仕事との組み合わせをどうやっていくのか、切実に問われることになった。

これまで車でピラをまいて介助者をみつけていたが、コロナの状況でそれができなくなり、ネットで募集したりしているがなかなか増えていかない。

また、地活のパタパタは利用者10人以上13人未満という条件があるが、いま日中活動の事業所はいっぱいできていて、お客さんを獲得するために楽しいことだけをウリにする所に流れて行ってしまうので、今ギリギリの状態で運営していて、これ以上人が少なくなると私が通所にならないといけなくなるかも、それを覚悟して活動している。

すぐにできない、動けない私が職員として働いているのは申し訳ないという思いもあるが、でもこんな私が働くことで障害を持った人とどうやって働くかということをもんがが考えざるを得ない、そういう影響を少しでも与えられたらいいんじゃないかと思っている。この次お会いする時は通所者の吉田久美子になっているかもしれないが。



## ディスカッション 他者に照らされ見えた事

竹内さんの報告のうち、土居さんは竹内さんが自由の森にいて不登校していたことや、センター21にいたことに関心を抱いた。どちらもユニークな場で、八王子にも関係者がいるという。竹内さんが関わってきた

きた基幹福祉相談センターやこれからめざす社会的事業所の根っこにつながっているのかもしれない。

竹内さんからは、土居さんに対し行政との距離の取り方について教を請うていた。土居さんは「要求型ではなく提案型へ」と。ただ、ここ何年か行政の線引きが硬くなってきていると。

吉田さんが言った「自分が思っていた当たり前は当たり前じゃなかった」という言葉(障害者も高校・大学に行ける)に竹内さんが惹かれた。作業所の職員、利用者を見ていると「雇われて働く」という発想に洗脳されていることとダブらせて。土居さんは、パタパタで当事者(吉田さん)がお客様としてでなく、運営する立場にいることに注目した。

吉田さんは竹内さんの社会的事業所の構想を聞き、パタパタのメンバーと職員の給料の差が大きいことをどうしていくか、また外とのつながりが大事だと考えつつも、取り組めてない現状を思った。

## 「地域共生社会」をどう考えるか

土居さんは、「共生社会」というより、竹内さんが言った「誰も排除しない」、そして「誰も取り残されない」ということばがびったりくるという。近代になってずっと問われている、できないよりできることがよしとされる社会をどう価値転換できるか、できないことの価値をどう社会に問い続けていくかが大事と言う。

「弱さの情報公開」とも。このつどいにも、自分の弱さをさらけ出すという思いで来ているのだと。そして「この世の中で起きていることは全て自分に関係があり、責任もあると考えるべき」と語る。

土居さんは、「失敗」は社会の共有財産にしていくべきものだから、自分が失敗したと言うことができるような心理的安全性が大事と言う。

竹内さんは、〇〇当事者というカテゴリズと行政の「うちの課じゃない」という線引きの結果、たらい回しにあった人が最終的に基幹福祉相談センターに来るのだという。地域共生社会の当事者は地域で生きることを営むすべての人々と受け止め、行政の中に共犯者を作っていきたいという。

吉田さんは、介助者を探したり、個々の生活を考えたり、学校問題に取り組んだり、日常活動を地道に続けることが自分にとっての地域共生社会だと語る。

## 私たちがならではの「重層的支援体制整備」

土居さんは「重層的支援体制整備」の「重層的」について、社協が取り組んでいる公式の体制とは別に、障害者団体と労働組合も含めた「コロナ困り事相談会」とか、中野区の団体から声がかかったアールブリュットの地元での活動として「かてかてアート展・街と障害者とアート」を障害者だけでなく、さまざまなアーティスト、大学生、ギャラリー、商店街などと一緒に取り組んでいることを語る。アーティストの中には宅

老所などに関わって働いている人などもけっこういて、彼らがすごく生き生きしており、かたや障害者に関わっている人が「うちは65歳まで」とか「看取りまでするのか」とかクライ話をしている状況があるという。

**竹内さん**は、「重層的支援体制」については、地域に元々あるものを枠組みの再構成として組み直すことでできるんじゃないかと思っているが、あまり期待していないと述べる。ただ、そこに通算10年にわたり関わってきたのだが、競争入札により3月で失うことになる。でも、地域で構想してきたマルチプラットフォームカフェを具体化しようとするべくもしている。例えば合コンに行ったら他の人を際立たせる「レンタルダメな人」のように、その人がそのまま生きていくんでいいよといった発信を繰り返すことで、地域を変えていきたいと語る。

**吉田さん**のイメージする重層的支援体制は「ご近所づきあい」。土居さん、竹内さんと同様で、社協の取り組みに関与するというよりも、自分達でできること、自分達しかできないことをやる。焦点としては、生活ホームを継続するのかGHに移行するかという話があるが、それを他団体とのつながりの中で、かつ楽しくやっていくことがこれからの第一歩だと述べる。

#### コメンテーターから1



**内田元洋さん** (越谷市地域共生推進課副課長)

今年の4月に従来の福祉部門を分けて、地域共生部が新設された。私がいる地域共生推進課では、障害者、高齢者、児童、生活困窮者といった縦割の制度・分野を超えた相談

体制と参加支援、地域づくりを一体的に取り組む「重層的支援体制整備事業」を来年度から実施しようと準備を進めている。竹内さんが言われたように、相談体制で言えば、新しい機関を作るのではなく、今ある分野別の相談支援機関を活かす形で進めていこうと考えている。最近では、福祉課題が多様化、複合化している状況であり、制度の充実だけでは追いつかない。住民同士のつながりや地域による支え合いが重要であり、悩みを抱える人への伴走的支援を目指した体制づくりが必要と感じている。

#### コメンテーターから2

#### 齊藤秀樹さん (越谷市障害福祉課調整幹)



土居さんの話された八王子での実践は大変参考になった。越谷市で取り組んでいること、取り組んでいないことも含め、聞かせていただいた。越谷市では

基幹相談支援センターはまだ設置できておらず、自立支援協議会に部会を設け、地域生活支援拠点等も含め、越谷にどのような形のものか、ニーズの調査を進めている。竹内さんのお話からは、何のための制度なのか、何が行われているのかを行政側としても考える必要があると感じた。また、「一步を踏み出す」ということに関し障害者共同受注ネットワークのチラシを商工会議所のご協力を得て会報と一緒に5000社に送らせていただいた。少しずつでも一步踏み出して障害者の働く場を作っていきたいと考えている。

#### コメンテーターから

#### 朝日雅也さん (埼玉県立大学教員)



いろいろなお話に共通していたのは、カテゴリー別に、対象別に細かくなって整備されているように見える福祉の取組が、けっきょく経営が自由な競争に委ねられてしまっていて、そこから一步踏

み込んだ形で共生社会なるものを真剣に考えていかないといけないと実感した。共生というのは、お話の中に共通していた通り、分けないという発想からスタートすることが大事であって、冒頭山崎代表理事からも語られたように「共に生き合うこと」からスタートし、その存在価値を認め合うことが出発点になる、こういう考えを地域の中で広げていければと思った。社会参加というの、障害がある人や課題を持っている人が正常といわれる社会に参加するのではなく、社会がその障害がある人の課題だとか暮らしにくさに参加する、そこに近づいていくことが非常に大事。地域自立支援協議会の話が出たが、私もある自治体で会長をしているが、地域自立支援協議会とは障害のある人の自立を支援する部分もあるが、共生できる社会に地域が自立してゆく、そのための協議会だと思っている、今日はそういう話を伺えて私にとっても糧になった。皆さんに感謝申し上げます。

共に働く街を創るつどい2021の最後に会場で発表した恒例の自治体提言です。近隣3市の首長に毎年直接お届けし、併せて懇談の場を設けていただいております。

2021年12月12日

市長

様

2021年度 共に働く街をめざす自治体提言

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

代表理事 山崎 泰子

埼玉県越谷市東越谷 1-1-7

職場参加ビューロー世一緒内

### 1) 共に生きるは共に学び育つから

北欧のノーマライゼーションの歴史が示しているのは、特別な支援をするために場を分けて保育・教育を行うと、その後一緒に生きる社会にしようとしてもお互いにどうつきあっていいかわからないため、大変な苦勞をしなくちゃいけないということです。保育所や通常学級で共に育ち学んでいる事例を貴市のHPで伝える必要があります。

### 2) 共に生き共に働く支援を

障害者雇用や就労系福祉サービスが広がっている半面で、以前より障害のない人と一緒に働いている場面が減り、街の中で共に生きている実態が希薄になっています。現在就労A型にいる人の相当数が10数年前まで手帳をもたず一般就労していた人です。手帳をもっても別枠でなく共に生きられる地域にするための支援が問われています。

### 3) 当事者が担い手にもなる形の支援を

分けないで支援を得られるようにする方法の例が、全身性障害者介護人派遣事業です。この事業を活かすには障害者や家族等が介護人を募り、育て、つきあう必要があります。この事業を通学・通勤等にも使えるようにすれば、障害者等が共に学び共に働く街づくりの担い手になれます。

### 4) 地域共生の隠し財産はお店や町工場

厚労省が5年おきに行っている障害者雇用実態調査によれば従業員43.5人以上の雇用義務ラインよりはるか下の29人～5人の雇用義務のない零細企業が、全障害種で最も障害者を雇用しています。義務でなく戦力として受け入れているのであり、今後の地域共生社会に向けた日本社会独特の隠し財産といえます。積極的に支援する施策を貴市として進めることが要めです。

### 5) 市役所にお手本となる職場を

貴市は地域の最大の事業所であり、住民の生活に密着した多岐にわたる職場をもっています。障害者活躍推進計画を作成し推進されていますが、数字だけではない、「地域共生社会」のお手本として住民に示すことができる、障害者と共に働く職場づくりが重要です。役所を訪れる市民が、介助が必要な障害者が働く姿と直接出会えるような働き方を、貴市役所で創出することに取り組みませんか。当会でも全面的に応援します。

### 6) 各世代の支援計画、都市計画に反映を

「我が事丸ごと」が叫ばれますが、つきあったことがない人のことは「我が事」として受けとめようがありません。障害のない人にとっても、障害のある人にとっても、同じです。上に述べたことについて、貴市の障害者計画、障害福祉計画はもちろんのこと、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、子ども子育て支援事業計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直しの際にも反映されるよう、あらためて提言します。

職場参加をすすめる会

2021.1.1~2022.3.31カレンダー

(2022年1月12日暫定)

2022年1月			2022年2月			2022年3月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日	土		1日	火		1日	火	
2日	日		2日	水	当番会議	2日	水	当番会議
3日	月		3日	木	たそがれ	3日	木	たそがれ
4日	火		4日	金		4日	金	
5日	水		5日	土	春日部市へ挨拶	5日	土	
6日	木		6日	日		6日	日	
7日	金		7日	月		7日	月	
8日	土		8日	火	緑谷水辺の市	8日	火	緑谷水辺の市
9日	日		9日	水		9日	水	
10日	月		10日	木		10日	木	
11日	火	緑谷水辺の市	11日	金		11日	金	
12日	水		12日	土		12日	土	
13日	木		13日	日		13日	日	
14日	金		14日	月		14日	月	
15日	土		15日	火		15日	火	
16日	日		16日	水		16日	水	
17日	月		17日	木		17日	木	
18日	火		18日	金		18日	金	
19日	水		19日	土		19日	土	
20日	木		20日	日		20日	日	
21日	金		21日	月		21日	月	
22日	土		22日	火		22日	火	
23日	日		23日	水		23日	水	
24日	月		24日	木		24日	木	
25日	火		25日	金		25日	金	
26日	水		26日	土		26日	土	
27日	木		27日	日		27日	日	
28日	金		28日	月		28日	月	
29日	土		29日	火		29日	火	
30日	日		30日	水		30日	水	
31日	月		31日	木		31日	木	

のなかには、リハビリを兼ねた1~3時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。は、素焼きの鳩笛の絵付けと、その普及・販売のための研修や営業活動です。は、障害のある人や他の人々が日替わりゲストとなって、暮らしや仕事を語り継ぎます。あなたもどうぞ！

すいごごカフェ 2/2~3/23 1時半のメニュー



2月2日(水)

山脇 雅史さん

カリンバ 奏者

## カリンバコンサート

かつて不況で企業から内定取消しショックの日々を経てママチャリで首都圏各地に旅しつなかりを編み続けカリンバと出会う。受苦と鎮魂の旅から紡ぎだすカリンバの調べをどうぞ

2月9日(水)

志波美乃里さん

埼玉県立大学4年生

## 社会福祉を学ぶとは

すいごごゲストとしては最年少。福祉を学ぶ学生はどのように育ち、ここに来たのか。いまどきの学生事情、JAZZとの出会い、そして間もなく迎える卒業後との職場への思いは。

2月16日(水)

鳴河 彩ちゃん

この日はLunch Cafe どっこいしょ  
川越 なるかわ農園

## 共に育ち今 農を生きる

幼時から障害の有無問わず変わった面白い人達と交り育った彩ちゃん。農大に学び農家の同級生と結婚。年中休みなしの中時間を割いて来てくれる彩ちゃん。農から見える世界とは

3月2日(水)

下重 美奈子さん

自立生活協会事務局

## 上福岡の街で生きて

野島、荒井両先輩と同じ都立北養護卒後、町の福祉の店で働き上福岡の障害者運動と出会い、生活ホームから団地一人暮らしへ。介助派遣や運動、ノミニケーションの輪は最強。

3月9日(水)

青木 繁明さん

世一緒スタッフ

## GHから一人暮らし

社会的入院状態からGHテレサで団地生活を経験した後、同じ団地で一人暮らしへ。テレサの自立生活援助やボランティアの支えを受けB型も利用し月1の通院等で暮らしを編む。

3月16日(水)

樋上 香ちゃん

この日はLunch Cafe どっこいしょ  
元吐夢亭店長

## 吐夢亭後の地域で

80年代半~90年代初めの吐夢亭時代から「誰もが」時代への推移。その境目には何が?この20年は何だったか?「中央市民会館」から「市民協働ゾーン」の踏み跡をたどりつつ

3月23日(水)

未定

未定

この日はせんげん会「世一緒」で



# すいごごカフェトーク集

2021年9月22日



**藤井哲也さん(KP 神奈川県精神医療人権センター)**

**【我が人生を振り返りつつ】**

現在 62 歳。シャロームの家という神奈川県横浜市磯子区の精神保健の就労継続B型の職員として働いている。私も精神の当事者で、統合失調症。15 歳くらいから 9 回の入退院も経験し、45 年来病気を抱えてきた。2015 年に Y P S 横浜ピアスタッフ協会を立ち上げ、入院中の待遇が悪かったら弁護士につないだり、外部との接触をピアが受け持つ形でやっている。幻覚や幻聴のある私達の病気はなかなか理解されないけど、説明することはナンセンス。どこに生きる価値があるか、人権ってどこにあるかということをいつも考えている。



**10月13日 樋口由美さん(春日部市障害者支援センターえん職員)**

**【相談者から学びつつ】**

水かけ祭りの有名な深川出身。えんの職員として相談支援をしているが、市役所とケアマネが混ざったような感じ。どこかへ行きたい、お風呂に入りたいなど、様々な相談に乗り、内容確認のために訪問もする。自分も後縦靭帯骨化症という難病になり体が思うように動かなくなりましたが、車椅子の人ってもっと大変だな、とわかるようになったのはいいことだと前向きに捉えるようになった。えんに入れていなかったら、今頃外に出れずに家で寝てたんだろうと思うし、えんで「大丈夫だよ」と後押ししてもらったから、4 人の子供のうち多動の次男も今普通学級で頑張っている。



**10月20日 小田原道弥さん(川口 ねこので)**

**【川口の街で生きるとは】**

僕は、見ての通り CP (脳性まひ)。小学校は、教育大学(現筑波大学) 付属桐ヶ丘養護学校に入学が決まっていたんだけど、たまたま近所に住んでいた故・八木下浩一さんに「なんで近所に小学校がある

1994 年 8 月 24 日 第三種郵便物承認

のにわざわざ東京に行くんだ。」と言われて。確かに見学して楽しかったので、近所の市立芝小学校に入学した。でもそこには八木下さんが 3 年生で在学していて、騙された!と思った。中学ではいじめや不登校を経験したから決して楽ではなかったけど、それでも大人になった今、いじめられ慣れたことがあったから駅員ともケンカができたし、彼女も今まで結構いたし、小中学校の経験はそういう意味ではよかったのかな。

**10月27日 及木聡さん(仕事と恋愛研究者)**



**【仕事と恋愛の法則】**

現在、高齢デイサービスで生活援助とトイレの一部介助をさせてもらっている。家内とは統合失調症のオフ会で出会ったんだけど、結婚して 6 年間でずいぶん成長できたのは家内のおかげだと思っている。人を好きになるっていいこと。だけど、恋愛は時に良きにしろ悪きにしろ自分を変える。でも、最終的に人を変えるのは、支援員でもなく両親でもなく恋人でもなく、自分自身のモチベーションを上げること。結婚は恋愛の延長上にあるものじゃないからなおさら、うまくいくためには自分自身が努力しないとイケない。

**11月24日 伊藤時男さん(精神医療国賠訴訟原告)**

**【鳥は空に魚は水に人は社会に】**

昭和 26 年生まれ。小学 2 年まで仙台、そこから高校 1 年まで福島育ち。だけど、父の後妻とそりが合わず、小学校 6 年の頃から家出を繰り返していた。問題を起こすたび、川崎でコックをしていた叔父が来て面倒を見てくれた。でもある時俺がナイフを持ち出したので病院に連れて行かれて。その頃は妄想状態がひどくて一番症状が悪かった時代だった。今は GH を経て一人暮らしをしているが、1973 年に福島県内の病院に医療保護入院して、2011 年の東日本大震災でこの病院が閉鎖するまで、意思に反して病院で過ごすことを余儀なくされた。退院できなくて困ってる人が私以外にもものすごくいるってことを実感していたから、こういうことはあってはならないと裁判に出る決意をした。

写真は、先日のしらこぼと水上公園花壇整備共同作業。生活介護「神明苑」のユニットが水やり作業中です。今年もよろしくお祈りします！



### お便り

寒中お見舞い申し上げます。

新年の雪・第六波のニュースの中…いかがお過ごしですか。

私は今月二回の腹話術WS申し込んであったのを キャンセルしました。

南道路側の解けない雪を眺めながら…お抹茶を点て…

雪はすでに溶けてる北の(借りてる)畑から、夫が収穫してきた

大蔵ダイコン・小松菜・ねぎなどを眺めてニンマリし…夕飯の手順を考

えています。

腹話術WSは、昨年申し込んで楽しみにしてたのですが、主催者側から

「…第六波で参加するのが不安な場合、キャンセルできるので早目のご連絡を…」のメールが届き、気になってたけど、迷いつつ…キャンセル。

人形と二人の会話で、異なるどっちも本当の気持ちみたいなのを…語っていきけるセラピーが、出来そうな気がして…腹話術を学んだら、役に立つような気がしてただけ…

例えば、うまく話ができない子・患者…話ほうまいんだけど、本人はなぜか話が違いう気がしてきてる大人(政治家・行政職員とか)…子どもや妻が大好きなのに、その反対行動しかとれない夫や父親…もしかしたら…その人形同伴だと 心地よく話せちゃうかもしれない…

関西に住んでた時に、友人の母上が住んでた施設に連れて行って…て…その母上が人形を抱っこしながら話してくれた時…

越谷に来て、「世一緒」のすいごカフェ”に参加して…毎回手話を教えてくれる青年の毎回ハッピーエンドの物語を学んだ時… 私は、そういうことが浮かんできた…

ま、学びのチャンスは、またやってくる…私が願えば…と思うことにして

今年も よろしくお祈り致します。

有竹和子

二〇二二年一月二六日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日)

通巻五一五四号

一九九四年八月二十四日第三種郵便承認

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会

〒333-0851

川口市芝新町十五-九 アステール藤野1F

## 2021 年度会費、寄付、協力会費を納入いただきました(五十音順、敬称略)

### 【2021 年度会費】

青木繁明、阿久津康仁、浅草秀子、朝日雅也、石田貴美子、伊藤峰子、上野豪志、内野かず子、大坂富雄、大武昭、大田ちひろ、大塚眞盛、沖山稚子、尾谷英一、及木聡、黄川田仁志、木下恭子、佐々木洋子、佐藤恵美子、佐藤秀一、澤則雄、清水泉、清水泰代、島根淑江、鈴木照和、関一幸、竹迫和子、田島玄太郎、巽孝子、巽優子、谷崎恵子、津崎悦子、辻浩司、友野由紀恵、中山佐和子、並木理、西陰博子、野村康晴、長谷川顕、橋本克己、原和久、原田真弓、樋上秀、日吉孝子、正木敬徳、松田典子、水谷淳子、森田謙二、谷塚祥子、山川百合子、山崎かおる、山崎茂、山崎有子、山崎泰子、山下浩志、山田裕子、湯谷百合子、吉田久美子、吉原広子

### 【2021 年度寄付金】

糸賀延江、植田恵子、岡本信子、沖山稚子、小野達雄、木下恭子、仕事おこし懇談会、白倉保子、田島玄太郎、土居幸仁、富沢一枝、西陰博子、野村康晴、長谷川顕、原田真弓、平野栄子、水谷淳子、谷塚祥子、山下浩志、山田奈緒、山本高行